



生き生きとした自分を見つめるための実用生活誌

はじまりのページ

Shukokai-Magazine The page of beginning

2019 Spring NO.47

ダイジェスト版

特集

HITV療法の成果

進化を続ける“次世代型免疫療法”の現在

がん治療の苦痛を

和らげるための基礎知識

Vol.1

副作用とは何か？

蓮見賢一郎 医療法人社団 珠光会 理事長

特集 Human Initiated Therapeutic Vaccine HITV療法の実果

進化を続ける「次世代型免疫療法」の現在

HITV療法（Human Initiated Therapeutic Vaccine）は、米国法人 蓮見国際研究財団の蓮見賢一郎先生によって開発された次世代型免疫療法——。研究着手から約25年が経つ現在、注目すべき成果を上げています。今回の特集は最新データに基づき、HITV療法の「現在」の姿をお伝えします。

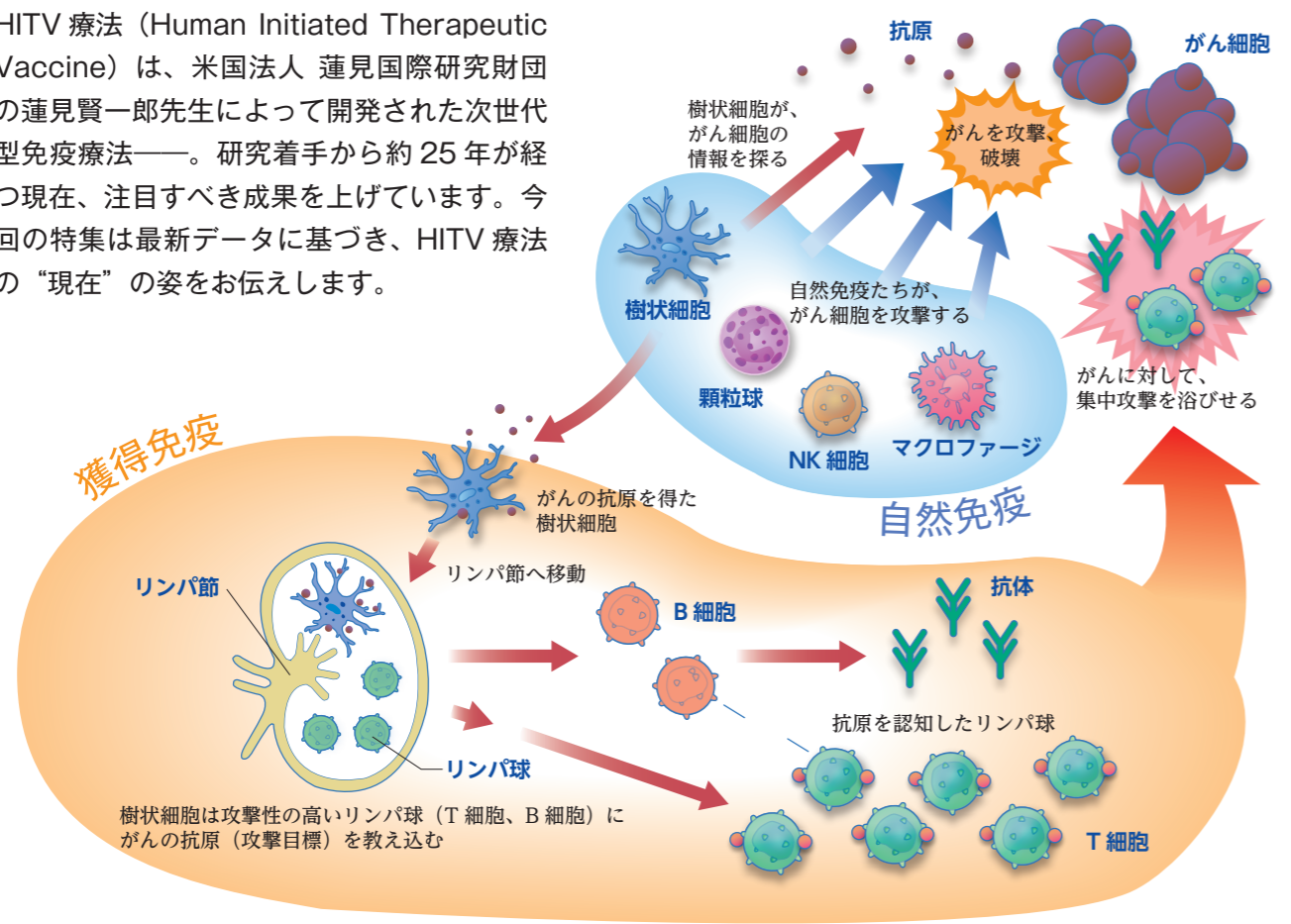


図1 「自然免疫」と「獲得免疫」

● **HITV療法の実果**

HITV療法の実果を語る前に、その歴史を簡単に振り返ってみましょう。

1973年、米国ロックフェラー大学のラルフ・スタインマン教授^{※1}によって命名された「樹状細胞」は、免疫機構の中核を担う免疫細胞として有名です。

免疫には異物に対する初期防衛線といえる「自然免疫」と、遭遇した異物を記憶し、二度目から即座に強い破壊力で攻撃を加える「獲得免疫」があります（図1）。獲得免疫において、攻撃対象となる異物の情報を提示し、攻撃の実行部隊となる免疫細胞（T細胞など）を指揮しているのが樹状細胞です。

蓮見賢一郎先生が、他に先駆けてこの樹状細胞に注目したのは1994年——。1996年にはHITV療法の前身となる樹状細胞を用いた治療法で「悪性リンパ腫」の再発を16年間の延命へと導きました。

その後、樹状細胞の研究を加速させるため、米国トーマス・ジェファソン大学内に、米国法人 蓮見国際研究財団を設立（現在はワシントンDCに移動）。さらに、米国メリーランド州立大学とも協働——医学部分子病理研究部長 デイーン・L・マン教授を中心に基礎研究が続けられました。

2005年、蓮見先生は樹状細胞を腫瘍内へ

※1 ラルフ・スタインマン教授：カナダ出身の免疫学者・細胞生物学者。樹状細胞の命名者として有名。2011年10月ノーベル生理学・医学賞を授与。米国法人 蓮見国際研究財団の顧問も務めた。

2016年に開始された「全国がん登録」による初めての結果が、今年1月に発表されました。

ご存知の方もいらっしゃるでしょうが「全国がん登録」とは、日本でがんを診断されたすべての人のデータを国がひとつにまとめて管理し、集計・分析などを行う仕組みのこと——。従来、がんを診断された人のデータを収集するシステムには、都道府県がそれぞれの自治体のなかで行う「地域がん登録」や、医療機関ごとにデータを収集する「院内がん登録」という制度がありますが、より精度の高い情報を汲み上げ、さまざまながん対策や医療計画に活用するためにスタートさせたのが「全国がん登録」制度というわけです。

今回発表された結果によると、2016年に新たにがんを診断されたのは、約99万5000例——。うち男性が約56万6000例（56%）、女性が約42万8000例（約43%）でした。2015年に新たにがんを診断されたのが約89万1000例ですので、いかにがんが増加しているか、おわかりになるでしょう。

こうしたがんの増加傾向は、世界的にもうかがえます。2018年、世界におけるがんの患者数が2016年までの10年間で28%増加したことを、世界のがんの疾病負

担を調査する Global Burden of Disease Study の研究グループが報告したのです（JAMA Oncology 誌 オンライン版 2018年6月2日号掲載）。同報告によると、2016年の世界におけるがん患者数は約1720万例。死亡例は約890万例だそうです。

「全国がん登録」のような制度の充実は、増加し続けるがんに対抗するためには効果的かもしれません。入学試験における「傾向と対策」ではありませんが、例えば各地域の特色に即した細やかな医療計画を立案する際などには有効でしょう。

とはいえ、私たち医師が向き合っているのは生身の患者さんです。当然、そこには数字では把握できない現実があります。そして、それらの現実には、患者さん独自の大切な個性や歴史の上に成り立っているのです。

私たち医師がもっとも心しておかねばならないことは、ひとりひとりの患者さんに個別に向き合うことに他なりません。

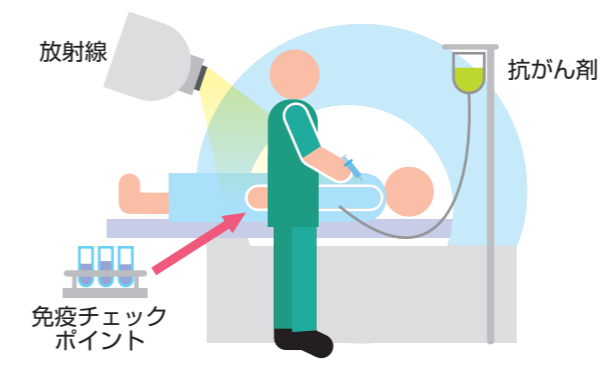
病態も心情も異なる患者さんに寄り添い、最善の医療とサポートを提供する——。世の中に氾濫する数字を眺めるたび、医師としての志に思いを馳せる今日この頃です。

直接投与するという、当時他に類を見ない手法で、頭頸部がんの再発を治療に導きました。そして、この手法をベースにHITV療法の基本概念を構築。同年、HITV療法専門の臨床施設として「ICVS東京クリニック」を開設したのです。

●受診者数は1000人超え

HITV療法の特長は、樹状細胞の腫瘍内投与を基軸に抗がん剤、放射線、免疫チェックポイント阻害剤など、さまざまな治療法を組み合わせた施術法にあります(図2)。こうした複

図2 HITV療法の仕組み



HITV療法は樹状細胞の腫瘍内投与を軸に、抗がん剤などさまざまな療法を組み合わせることにより、治療効果を相乗的に高める

合的な施術方法により、治療効果を相乗的に高めると同時に、過剰な免疫力亢進による副作用を抑制することが可能となりました。

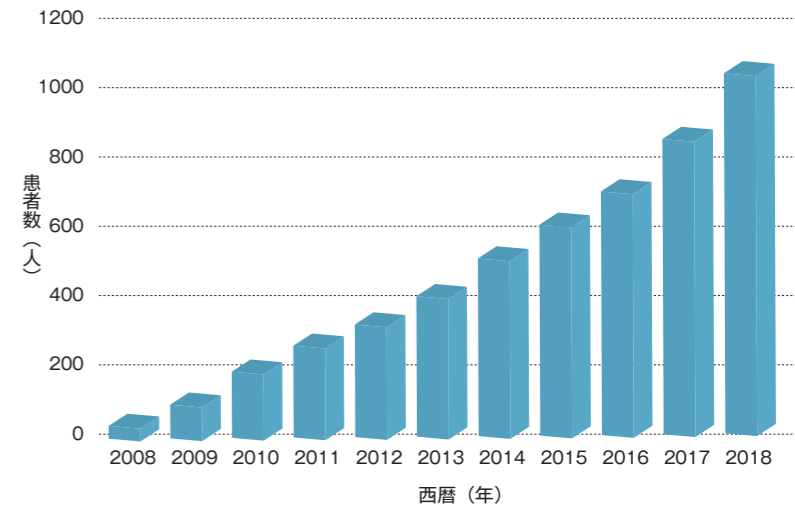
他の療法と樹状細胞の組み合わせなどを基としたHITV療法のプロトコル(治療手順)が確立されたのは2013年。そして、昨年、同療法についての最新データが、ICVS東京クリニックの日下康子先生の手によってまとめられました。

日下先生は東北大学医学部卒業。同大学医学部脳神経外科講師、東京慈恵会医科大学脳神経外科講師を経て、2018年よりICVS東京クリニックの非常勤医師、そして、2019年より常勤医師として活躍されています。

「今回まとめたHITV療法の各データは、2013年以降の数字を基に集計しました。まず、受診患者数は、当クリニック開院以来伸びており、2018年現在では1000人を超える患者様が受診されていらっしゃいます(図3)。(日下先生)

こうした受診患者数の増大は、国内での(患者数の)増加に加え、海外でのHITV療法に関する評価上昇が影響していると考えられます。現にICVS東京クリニックの患者さんの約80%が中国、台湾、ロシア、アメリカ、ヨーロッパ各国などの外国人。わざわざ来日せずとも自国(あるいは周辺国)でHITV療法を受

図3 ICVS東京クリニックにおける受診患者数推移



けたい……という要望に応じた海外への技術移転も、すでにマレーシアや中国では一部実施されており、ロシアやベトナムなど複数の国とは準備段階にあります。

「あくまでも私の実感ですが、海外の方のほうがHITV療法のような再生医療に、興味を示す方が多いような気がします。もしかしたら、保険制度の違いが関係しているのかもしれませんが。日本の公的医療保険制度は、2000年にWHO(世界保健機関)から世界最高と評価さ

れたほど充実していますが、世界を見渡すと、一度病気になるが高額な医療費を請求されてしまう国もあります。そうした国でがん治療を受ける人のなかには、高額な医療費を払い続けるより、再生医療にかけたいと判断するケースも少なくないでしょう。

また、日本の場合は公的医療保険制度の充実が、逆に保険外診療の敷居を高くしているという側面もあるのではないだろうか(日下先生)

●際立つ奏効率

図4はHITV療法の「疾患別分類」です。ご覧の通り、患者さんがもっとも多いのは肺がん(20%)、以下、大腸がん(16%)、乳がん(15%)と続きます。

「国立がん研究センターが発表している最新統計によると、罹患数の一位は大腸がん、二位は



ICVS東京クリニック 日下 康子医師

図4 HITV療法の疾患別分類

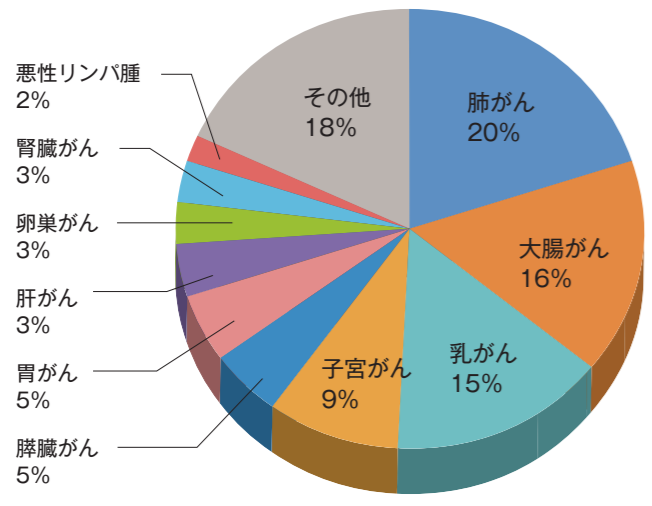


表1 HITV療法の奏効率

	No.	%
CR	36	34
PR	8	7.5
SD	10	9.4
PD	21	19.8
Mortality	31	29.2

2013年1月～2017年1月の第IV期、再発がん初診患者150例のうち、治療開始後2年間治療継続またはend pointまで治療・追跡可能だったのは106例、70.7%

の第IV期、再発がん初診患者150例に対して調査を実施したといえます。「プロトコルが明確になった2013年以降に治療を受け、かつ、治療結果を見極められる2年間を経過した患者様を抽出し、まとめて出した結果です」(日下先生)

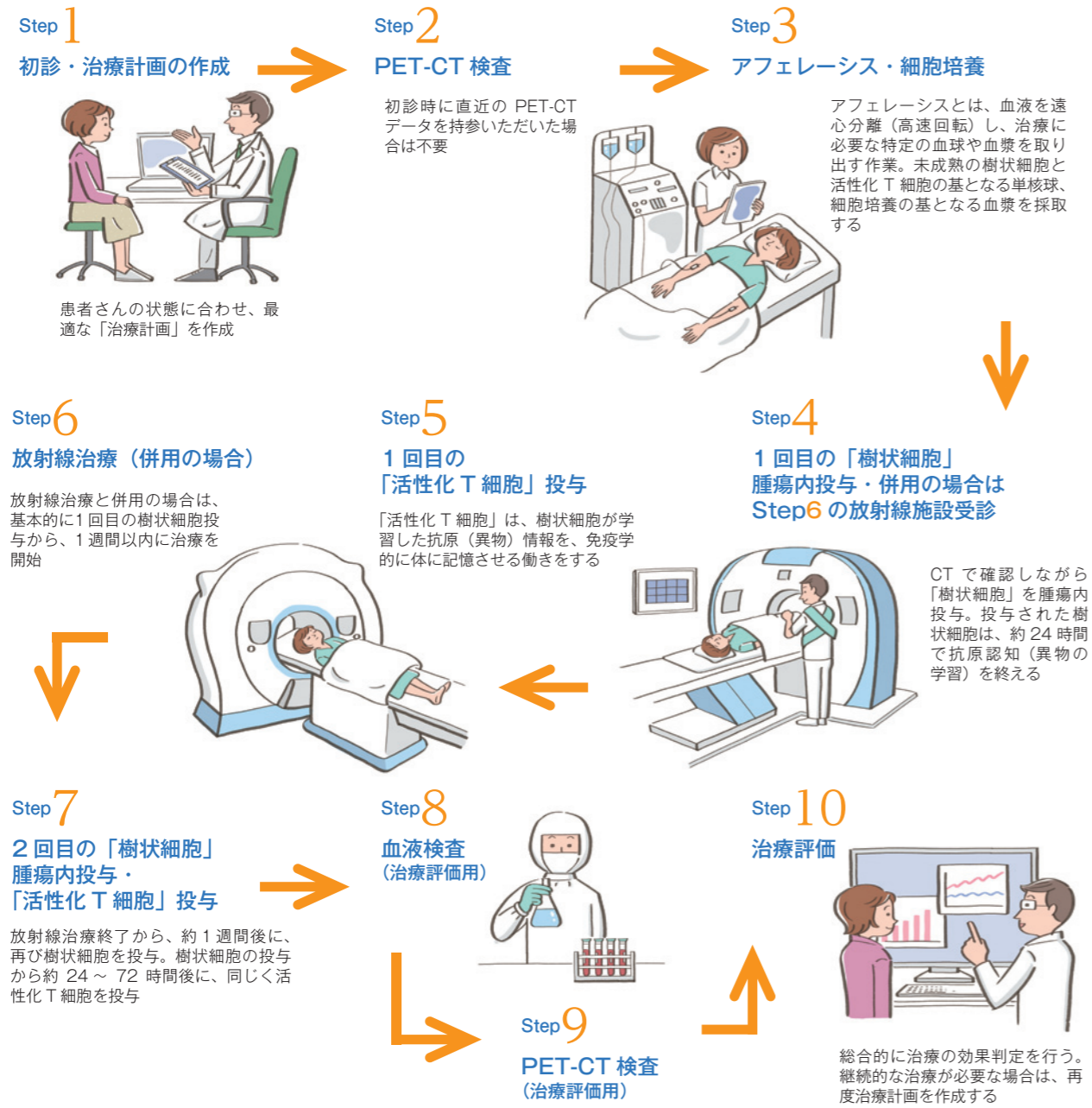
表中のCRは、Complete Responseの略——腫瘍が完全に消失した状態を指します。同様にPR(Partial Response)は腫瘍の大きさの和が30%以上減少した状態。SD(Stable Disease)は腫瘍の大きさが変化しない状態。

※3 2019年1月発表の「全国がん登録」制度によるデータ

※4 奏効率：がん治療の効果をはかる指標のひとつ。あるがん治療法を患者さんに用いた際、その治療を実施した後にがん細胞が縮小、もしくは消滅した患者さんの割合を示したものの

※2 ICVS東京クリニック：東京都千代田区紀尾井町4-1 ホテルニューオータニ新紀尾井町ビル4F 電話03-3222-0551

図5 HITV療法—治療の流れ



PD (Progressive Disease) は腫瘍の大きさの和が 20% 以上増加、かつ、絶対値でも 5mm 以上増加した状態、あるいは新病変が出現した状態。Mortality は死亡を指します。

「私が I CVS 東京クリニックに勤務したのは、昨年です。今回のデータの取りまとめは、何の先入観もなく実施することができました。すべてのカルテに目を通し、客観的な作業を粛々と積み重ねたつもりです。

そのうえで医師として感じるのは、なんともいっても奏効率の高さです。進行したがんにもかかわらず、30% を超える患者様の腫瘍が消失し、腫瘍減少も含めると 42% 近くの患者様の病態が改善されています。第 IV 期・再発という病期を考えれば、目覚ましい結果といえるでしょう」（日下先生）

さらに、「進行がん別治療 2 年後生存率」（表 2）でも、大腸がんで約 82%、乳がんで 90%、リンパ腫では 100% という優秀な成績を上げています。今回は確実な調査を期して 2 年後生存率としましたが、今後さらに追跡調査を行うことで 3 年後、4 年後生存率が明らかになるのではないのでしょうか。大変期待されることです。

● 治療へ続くルートを決める
HITV 療法の治療の流れを図 5 に示します。どれも重要なステップですが、最初の「初

表 2 進行がん別治療 2 年後生存率

	患者数	生存者数	2 年後生存率 (%)
大腸がん	11	9	81.8
肺がん	14	9	64.3
乳がん	20	18	90
リンパ腫	2	2	100
肝胆膵臓がん	14	5	35.7
子宮がん	11	6	54.5
その他のがん	34	26	76.5

診・治療計画の作成」は特に大切です。「HITV 療法は治療法として確立されているので、当然適応も決まっています（表 3）。適応外は原則的に治療不可となりますが、第 IV 期・再発がんの病態は千差万別。明確な線引きができない場合があります。

腫瘍径や転移数をもとより、年齢や全身状態などを総合的に判断し、治療をお引き受けできないケースもあります。それら受診の可否、今

表 3 HITV 療法の適応・非適応

化学療法	放射線療法	適応
未治療	未治療	・腫瘍数 ≤ 10 ・腫瘍径 ≤ 5 cm
耐性化	未治療	・腫瘍数 ≤ 5 ・腫瘍径 ≤ 3 cm
未治療	耐性化	・腫瘍数 ≤ 5 ・腫瘍径 ≤ 3 cm
耐性化	耐性化	・適応なし (悪性リンパ腫、肺がん、腎臓がんなどの一部症例を除く)

・病期 I ~ IV と再発に適応
・固形腫瘍の適応、血液がんに適応なし
・HITV 療法の治療評価には、基本的に PET-CT が有用

後の治療方針・計画を話し合う場が「初診・治療計画の作成」というステップです。治療へのルートを決める大切な作業となりますので、患者様と医師との綿密な打ち合わせが必要です」（日下先生）

先に述べた通り、HITV 療法の特長は樹状細胞投与を軸に、放射線など他療法を多角的に組み合わせた施術法にあります。最近では免疫療法に関する研究が飛躍的に進歩したお陰で、免疫チェックポイント阻害剤をはじめ、新しい治

療法が登場していますが、それらをどう治療計画に反映していくのかも、基本的にこの段階で練り上げられます。

「免疫チェックポイント阻害剤の場合、樹状細胞を腫瘍内投与したとき一緒に腫瘍組織の一部を採取し、同剤が効くタイプか否かを病理学的検査によって判断することも可能です」（日下先生）

● ●

「第 IV 期・再発を宣告され、もし治療に迷ったら、ぜひ当クリニックへご相談ください。HITV 療法は、患者様の信頼にきちんと応えられる療法だと確信しています」（日下先生）

2008 年、I CVS 東京クリニック設立時、蓮見賢一郎先生は HITV 療法を「延命ではなく救命のための治療法」と宣言しました。

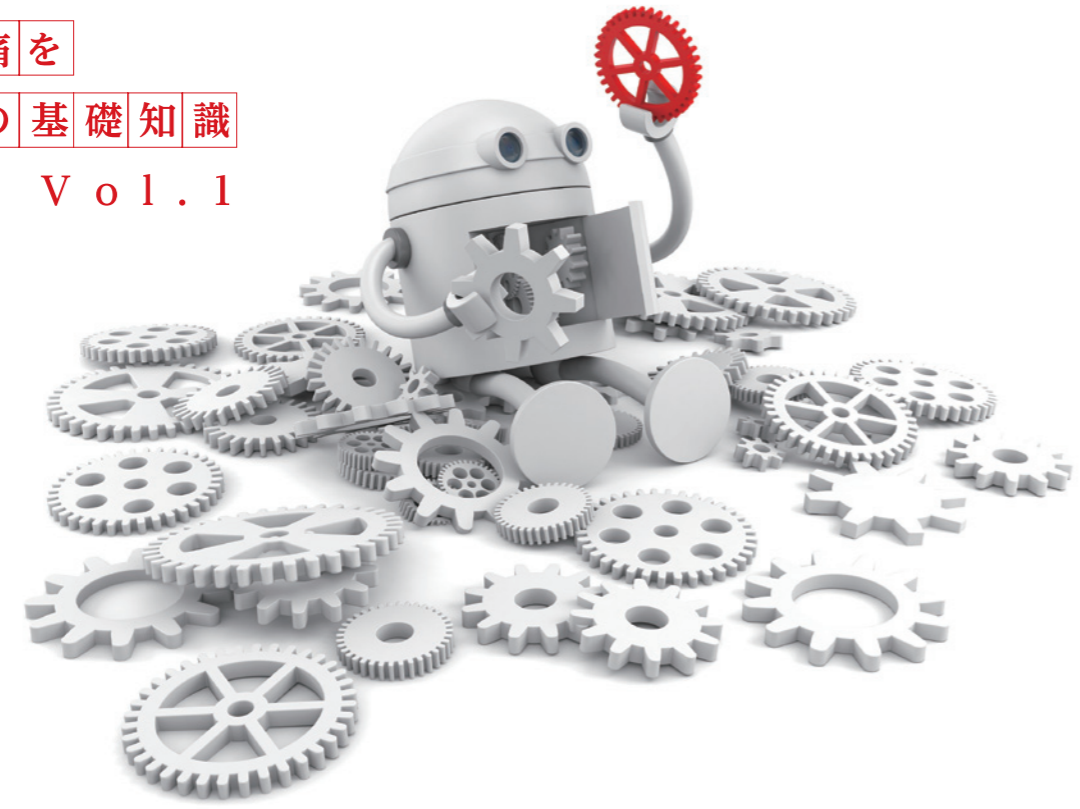
それから約 11 年、着実に治療成果を上げる HITV 療法は今後、再生医学、遺伝子治療などの研究成果を吸収し、益々確かな治療法として進化していくことでしょう。

※ Web サイト「免疫療法「シエルジュ」(https://wellbeinglink.com) には、動画や HITV 療法の成り立ちと仕組みをわかりやすく解説した「HITV 療法の歴史と未来」や、HITV 療法の症例なども解説した「第 17 回健康講座 がん治療の新時代—免疫療法を中心に据えた治療計画」（講師：蓮見賢一郎先生）などのコンテンツがアップされています。参考にご覧ください。

※ 5 免疫チェックポイント阻害剤：がん細胞が免疫細胞の攻撃にブレーキを掛ける働きを阻害し、免疫細胞みずからの攻撃力を再び活性化させる薬剤。ニボルマブ（商品名：オプジーボ）などがある



がん治療の苦痛を
和らげるための基礎知識
Vol.1



副作用とは何か？

副作用——。がん治療に臨む際、さまざまな局面で対面する言葉です。患者さんやご家族にとって「副作用」はある意味身近な用語ではありますが、その実体について、私たちはどれほど理解しているのでしょうか？
“がん治療の苦痛を和らげるための基礎知識”を深める本シリーズ。第1回は「副作用」を掘り下げます。

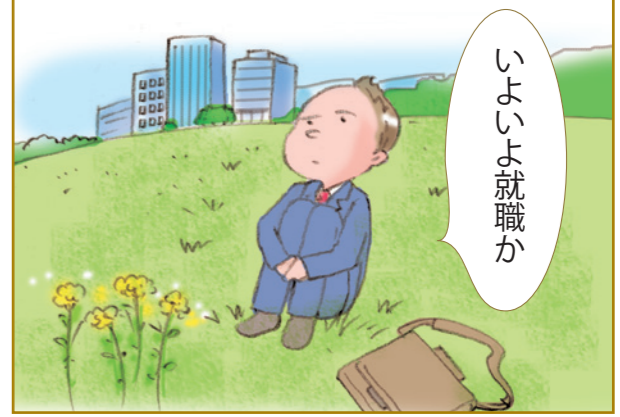
副作用の定義と症状

世界保健機関(WHO)は、副作用の定義を「有害かつ意図されない反応であり、疾病の予防・診断・治療、または身体的な機能の修正のために(人間に)通常用いられる量で発現する作用」としています。
なんだか難しい言い回しですが、要約すれば「医薬品を規定通りに使用したにもかかわらず生じた望ましくない反応」ということでしょう。
がん治療に関しては、「化学療法」や「放射線療法」に関して使われる場合がほとんどです。次にそれぞれの副作用についてみていきましょう。

化学療法(抗がん剤)の副作用

手術や放射線など、がん腫瘍とその周辺を限定的に治療する「局所療法」に対し、化学療法は「全身療法」と呼ばれます。その名の通り、化学療法は、抗がん剤を内服や注射によって全身に行き渡らせ、図1のような効果を発揮します。
化学療法は単剤で行われる場合と、作用の異

ぬるま湯の生活

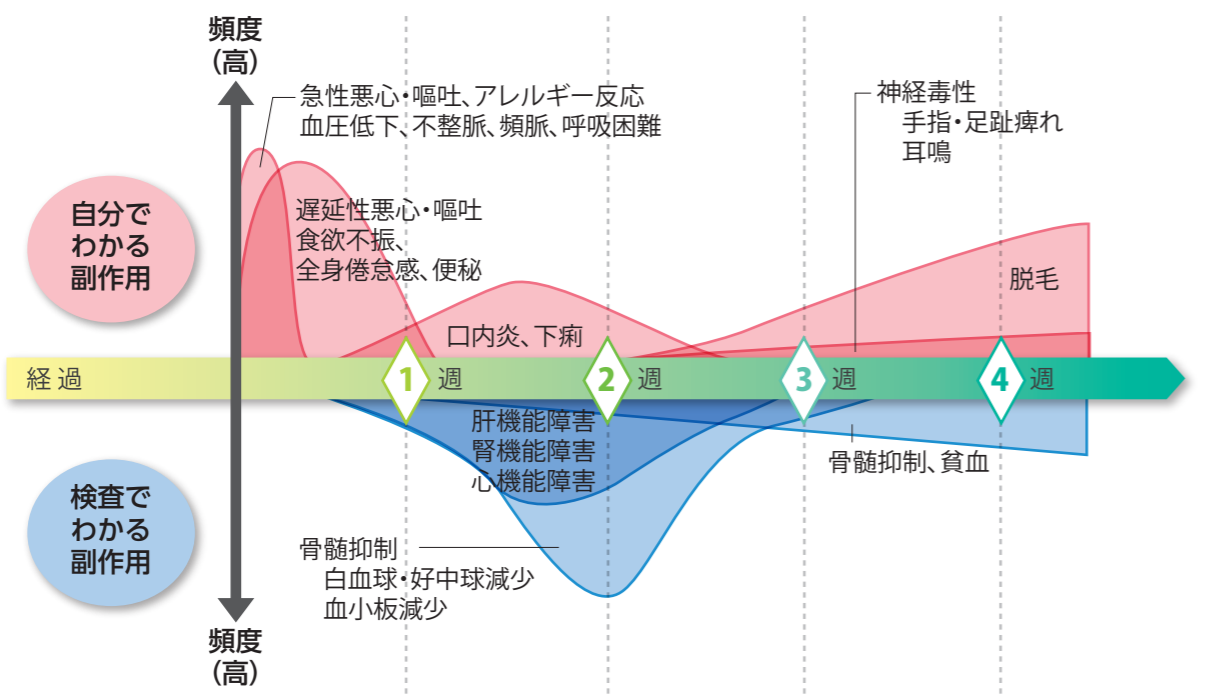


そしゃく回数



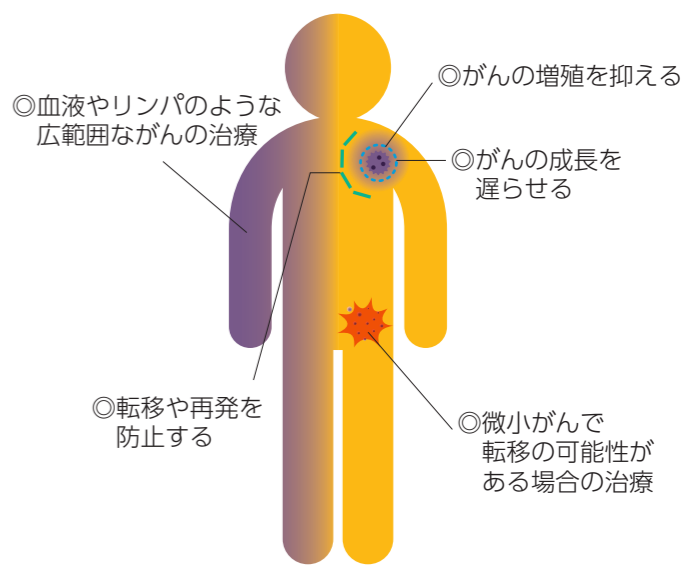
図2 抗がん剤治療の副作用と発現時期

	治療日	1週間以内	1~2週間後	3~4週間後
自分でわかる副作用	アレルギー反応、吐き気、嘔吐、血管痛、発熱、便秘	疲れやすさ、だるさ、食欲不振、吐き気、嘔吐、下痢	口内炎、下痢、食欲不振、胃もたれ	脱毛、皮膚の角化・しみ、手足の痺れ、膀胱炎
検査でわかる副作用			骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少)、肝機能障害、腎機能障害など	



※一般的な目安。実際の発現頻度、時期などについては個人差がある
 出典：財団法人がん研究振興財団「抗がん剤治療を安心して受けるために」より一部改編

図1 抗がん剤の効果



なる複数の抗がん剤を組み合わせて行われる場合があります。この「併用療法」は抗がん剤の作用を増強させるほか、副作用を分散させるというメリットもあります。結果、副作用が強くて使用が難しかった抗がん剤も、投与可能になるわけです。

抗がん剤は、異常なスピードで増殖・分裂を繰り返すがん細胞を標的としているので、正常細胞でも同様に分裂速度の速い「血液細胞」や「口腔・胃腸などの粘膜」、「毛根の細胞」、「爪の細胞」などにも影響を及ぼします。具体的には図2のような「副作用」が、投与から28日間程度の間に出現します。

自分でわかる副作用

●悪心・嘔吐

悪心(吐き気)・嘔吐は、脳の延髄にある「嘔吐中枢」(図3)が刺激されて生じる症状です。多くの場合は、医師から吐き気を抑える「制吐剤」が処方されます。制吐剤は積極的に服用しましょう。

抗がん剤治療を受けた患者さんのなかには、抗がん剤を体内に入れていないにもかかわらず、吐き気を催したり、実際に嘔吐してしまう人もいます。

これは「予期性悪心・嘔吐」と呼ばれるもので、ひどくなると他人の点滴などを目にしただけで症状が現れます。こうしたケースに対しては、抗不安薬などが処方されます。

●下痢・便秘

下痢は、腸管粘膜が薬剤によって刺激されること、や「消化管の粘膜が薬剤によって障害されること」によって生じます。医師からは下痢止め薬や整腸薬が処方されます。

便秘は抗がん剤が腸の動きを調整する「自律神経」へ作用することで生じます。また、制吐剤などの影響で、腸の運動が弱まることによっても起こります。医師からは下剤が処方されます。

●疲れ・だるさ

全身倦怠感・疲労感は、治療や薬などによる負荷に加え、さまざまな副作用、ストレスなどによって、エネルギーが損なわれていくことで生じます。

倦怠感の原因を特定することは難しく、例えば貧血の場合は輸血。服用薬剤が原因だと疑われる場合は減量・中止、他の薬剤への変更が検討されます。不眠の場合は睡眠薬が処方されます。

●口内炎

口内炎が生じる理由は主に2つ。ひとつは、抗がん剤が直接口腔粘膜を障害すること。もうひとつは、抗がん剤の「骨髄抑制」(12頁参照)による感染です。医師からは消毒作用のあるうがい薬などが処方されます。

●貧血

骨髄の造血細胞の機能が障害され、白血球が減少したり、消化管などからの出血によって生じます。重度の貧血の場合は、輸血が行われます。ふらつき・だるさ・めまいなどの症状を覚えたら、医師に相談しましょう。

●出血

骨髄機能が障害され、出血を止める血小板が減少することで、出血しやすい・出血が止まりにくい、という症状が現れます。

鼻血・歯ぐきからの出血・皮下の出血斑が生じやすくなりますので、転倒やけがに注意し、歯ブラシは毛の柔らかいものを使いましょう。

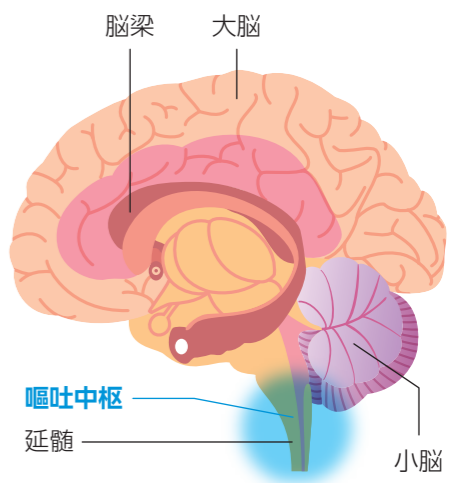
●痺れ

手先や足先が痺れたり、感覚が鈍くなる場合があります。けがや火傷に注意しましょう。指先の運動やマッサージなどで、血行をよくすることを心がけてください。症状によって、痺れを軽減させる内服薬が処方されます。

●爪の変色・変化

爪の成長が障害され、爪の変形や黒ずみ、爪にスジが入るなどの変化が生じます。薄い靴下や手袋で爪を保護しましょう。

図3 嘔吐中枢の位置



光液に入っているアルコールは刺激になりますので、注意してください。爪の変色・変化は、抗がん剤治療が終了すると回復します。

●脱毛

髪の毛の元となる「毛母細胞」が影響を受けることで、脱毛が生じます。脱毛の仕方は個人差があり、頭髪のみならず、体毛や眉毛などにも及びます。

医療用のかつら（ウィッグ）や帽子などを活用しましょう。毛髪は抗がん剤治療が終了すれば、3〜6か月後には再び生えてきます。



検査でわかる副作用

●骨髄抑制

骨髄の機能が障害されることにより、白血球・赤血球・血小板などが減少してしまうことを「骨髄抑制」といいます。白血球のなかでも、特に感染を防ぐ好中球が減少することで、口腔や肺、尿路、腸管、皮膚などで感染症が生じやすくなります。

うがいや手洗いなどをこまめに行い、体を清潔に保ちましょう。好中球は抗がん剤投与から7〜14日後にもっとも少なくなる場合が多いようですが、時間の経過とともに回復していきます。

●肝障害

肝臓は体にとって有毒なものを無毒化するなどの働きがあるので、抗がん剤の影響を受けやすい臓器です。

医師は血液検査などで肝臓の状態を確認しながら治療を進め、必要があれば服薬の中断などの処置を講じます。検査の結果が薬の影響であれば、中断することで回復します。

●腎障害

腎臓の役目は体内の老廃物を、尿を通じて体

じます。医師からは症状、部位などに応じて軟膏、ローション剤などが処方されます。

●口内炎・口腔乾燥

口腔や頭頸部への照射を受けた場合、口のなかが荒れたり、乾燥したりする場合があります。医師からは粘膜保護剤などが処方されますが、症状は照射終了後1か月程度で改善します。

●咽頭・食道炎

放射線範囲が咽頭や食道に及ぶと粘膜炎を発症し、食事の際に痛みや違和感を覚えることがあります。医師からは粘膜保護剤などが処方されますが、症状は照射終了後1か月程度で改善します。

免疫療法の副作用

副作用がほとんどないといわれる免疫療法ですが、治療手順を誤ると副作用が起きるケースがあります。

「LAK療法^{*1}やCTL療法^{*2}などの、いわゆる免疫細胞療法を受けた場合は、副作用として「発熱」が生じる可能性があります」

そう語ってくれたのは、米国人 蓮見国際研究財団理事長の蓮見賢一郎先生です。蓮見先

●皮膚炎
照射された部位の皮膚が赤くなったり、ヒリヒリしたりという「日焼け」のような症状が生

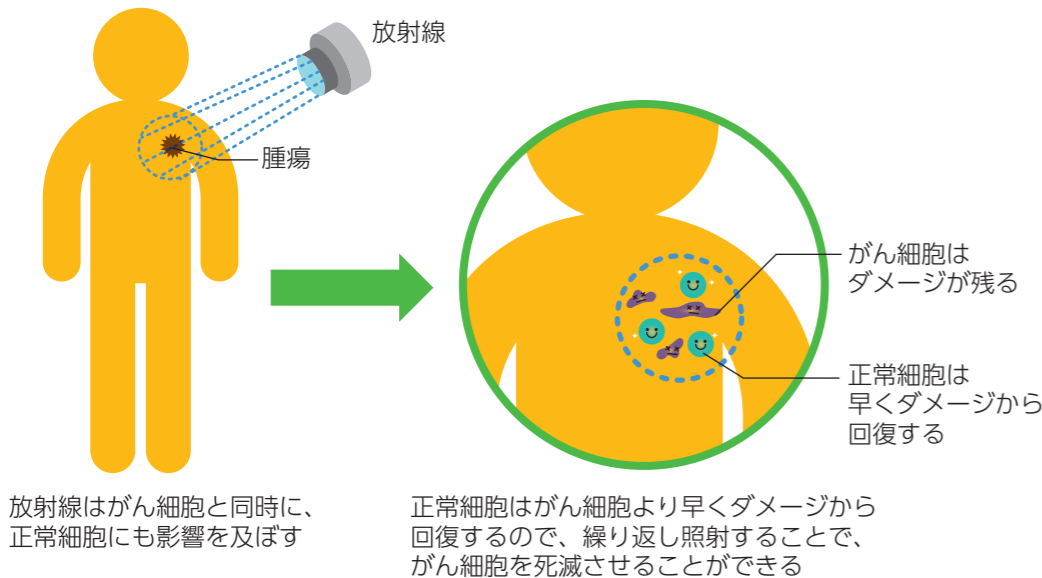


んを治療するのが放射線療法です。放射線は正常細胞にも作用しますが、正常細胞はがん細胞より早くダメージから回復します。そのため、連続して放射線を照射することで、正常細胞の回復を図りながら、がん細胞を死滅させることができるわけです（図4）。

放射線療法の副作用は、化学療法と同じく悪

心・嘔吐、疲れ、だるさ、脱毛（照射された範囲）等です。加えて、放射線独自の副作用には以下の症状があります。

図4 放射線療法の仕組み



放射線療法の副作用

外へ排出することなので、抗がん剤の影響を少なからず受けることになります。また、抗がん剤によって死滅した腫瘍細胞から放出される大量の尿酸が腎臓で結晶化し、腎機能の悪化を招く場合もあります。

尿酸の産生を抑制する薬剤を使用するケースもありますが、患者さんは水分補給を心がけ、ごんごんおしっこを出してください。



エックス線などの放射線には、がん細胞内の遺伝子にダメージを与え、がん細胞を破壊する効果があります。この放射線の特性を用いてが

生はがんワクチンの草分け——ハスミワクチン^{*3}や次世代型免疫療法HITV療法（3頁参照）などにより、日本の免疫療法を牽引してきたパイオニアです。

*2 CTL療法:CTL(Cytotoxic T-lymphocyte =キラーT細胞)とは、がん細胞の情報をインプットされ、攻撃モードに入ったT細胞のこと。体外で培養したT細胞を、免疫機構の司令塔ともいべき樹状細胞を使って教育し、殺傷力の高いCTLへ育て上げ、再び体内に戻すことで、がん腫瘍への集中攻撃を目指す治療法がCTL療法

*1 LAK療法:患者さんから採取した血液からリンパ球を分離し、高濃度のインターロイキン2という免疫活性化物質を加えて培養。増殖活性化させて患者さんの体内に戻すという療法

がんに克って生きる 第6回

4度のがんを乗り越えて

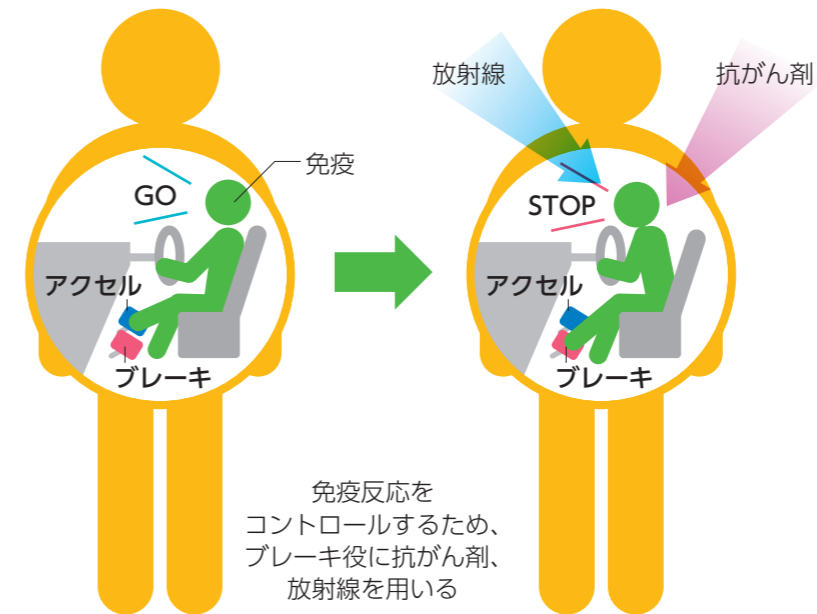
ハスミワクチンの患者数は延べ15万人——。現在も世界中で多様な広がりを見せる「がんワクチン」です。今回の「がんに克って生きる」は、ハスミワクチンを用いて4度のがんを乗り越えた女性の物語。ご子息の本田忠博さん（仮名）と奥様の洋子さん（仮名）にお話をお聞きました。

Today's guest

本田 雅子さん（86歳）：仮名
Mrs. Masako Honda

●かかりつけ医は「珠光会診療所」
本編の主人公——本田雅子さん（86歳）は、昨年12月に、脳梗塞で東京女子医大へ搬送されました。その後、運動障害や意識障害などが生じたことから、都内の療養型病院へ転院。現在、症状の改善を図りながら療養を続けていらつしゃいます。
「母がハスミワクチンをはじめたのは、父の影響だったと思います」
そう語ってくれたのは、雅子さんのご子息である忠博さん。奥様の洋子さんと共に取材に臨んでくれました。
「45年以上も前の話ですが、私のいとこが15歳という若さで大腸がんを患ってしまったのです。不憫に思った父が、何か手立てはないものか……と探しに探し、とうとう出会ったのが、故蓮見喜一郎博士の『私は癌ウイルスを発見した』という著書でした」（忠博さん）

図5 抗がん剤・放射線をブレーキに使う



「急性の発熱は、免疫細胞が体内で活動したときに生まれるサイトカインの影響によるものほとんど——。ネガティブなものではなく、むしろ免疫細胞が活性化している証として捉えるべき症状でしょう。」
問題は発熱が慢性毒性化した場合、つまり、腫瘍が炎症化するケースです」（蓮見先生）
慢性毒性とは、ヒトや動物が長時間さまざまな物質や物理的要因（放射線や電磁波など）にさらされたとき、徐々に現れる有害な影響のこと。免疫療法の場合は、腫瘍の炎症化を指します。
「炎症化の原因は、免疫細胞療法によって誘導されたCTLとがん細胞との間に過剰な反応が起きることです。炎症が起きてしまうと、がんがトランスフォーム（形質変化）しやすくなってしまうので、結果、がんの増殖が速まってしまうわけです。免疫療法を施す医師からすれば、この炎症の管理がもっとも細心の注意を要する仕事といえるでしょう」（蓮見先生）
では、炎症の管理をするためには、どんな方法があるのでしょうか。
医師と二人三脚で治療に臨む
「免疫療法のセオリーは、免疫力を亢進させること——免疫機構のアクセルを吹かすことです。免疫細胞とがん細胞の過剰反応によって生じる炎症を管理するためには、これらとは逆の作用、すなわち、免疫にブレーキを掛けることが必要となるのです」（蓮見先生）
この免疫反応のブレーキとして働くのが抗がん剤や放射線などです（図5）。つまり、免疫療法を効果的に稼働させるためには、免疫療法自体と抗がん剤・放射線などをどう組み合わせているのかという治療計画が重要になるわけです。

「免疫療法には、ハスミワクチンのようにがんの予防から治療までオールマイティに機能するものもありますが、がんの治療に特化した場合、綿密な治療計画は不可欠な要素といえるでしょう」（蓮見先生）
免疫反応には個人差があるので、有効な治療計画を立案するためには、最新科学に裏打ちされた「知見」に加え、豊富な臨床に基づく「経験」が必要です。逆にいえば、科学的な知見を発信し続ける医師、（免疫療法の）経験が実績として見える医療施設のもとでなら、クオリティの高い免疫療法を受けることが可能でしょう。
現在、免疫療法は急速に進化しています。副作用を回避するためにも、医師と意思疎通を図りつつ、二人三脚で治療に臨むことが肝心です。



蓮見 賢一郎先生

※3 ハスミワクチン：日本における「がんワクチン」の草分けともいべきワクチン。がんの0期からIV期まで幅広く効果を発揮する
※4 サイトカイン：細胞から分泌されるたんぱく質。免疫・炎症反応などの生体防御機構に重要な役割を果たす

『私は癌ウイルスを発見した』（光文社／1964年）は、がんの発症にウイルスが関与していることを解き明かし、大きな反響を呼んだ書籍です。ハスミワクチンを世に広めるきっかけにもなりました。

「本を渡されたいところは、高野深正先生（麻布大学名誉教）のハスミワクチンによる治療体験を知り、即座に珠光会診療所（当時）を受診したので。その後祖父も大腸がんでハスミワクチンをはじめたこともあって、当時珠光会診療所は本田家にとって、かかりつけ医」のような存在になっていたのです」（忠博さん）

「結婚した直後、風邪を引いてしまいました。菌が腸へ行って下血してしまったのです。義父母に相談したら、すぐ珠光会診療所へ行くよう勧められました」（洋子さん）

ちなみに、忠博さんの御祖父様は82歳で天寿を全うし、おいとこさんは完治して現在も元気で仕事を続けているそうです。

●「研究したい」として申請

雅子さんは1987年、54歳のとき、東京女子医大病院で、卵巣がんの診断を受けました。当時、珠光会診療所院長の故蓮見賢一郎博士は、抗がん剤や放射線治療には距離を置くという考え。忠博さんのお父様も同じでした。

「抗がん剤と放射線はやらずに、腫瘍だけ摘出してくださいと医師にお願いしました。訝った医師から、何かの宗教ですか？」と訊かれま

したが、ハスミワクチンの説明をして納得していただいたそうです。治療に関する誓約書は書かされましたが、当時としては寛容な判断だったと思います」（忠博さん）。

手術は無事成功——。雅子さんはハスミワクチンを用いつつ、転院先で療養に努めました。「母の2度目のがんは69歳のとき——。右腎臓がん」でした。蓮見賢一郎先生から東京女子医大の東間敏教授をご紹介いただき、同病院の腎臓病総合医療センターで治療していただきました。東間先生はハスミワクチンについてよくご存じだったので、抗がん剤と放射線は使いませんでしたが、なんの問題もなく治療を進めることができました」（忠博さん）。

このときも手術は無事成功しました。しかし、忠博さんらは、担当医から奇妙な申し出を受けます。——手術で摘出した腎臓と尿管を研究用に提供してほしい……というのです。

「腫瘍がまるでバリアーで遮断されたかのように、腎臓の腎盂に留まっている珍しい例なので、ぜひ研究させてほしい……とのことでした」（忠博さん）。

病院の申し出を快諾した忠博さんら。雅子さんの身に起きた現象に、ハスミワクチンが関わっているのかどうかは検証されていませんが、ハスミワクチンには、がんの予防や副作用の軽減などさまざまな効果が見込まれています。雅子さんがワクチンを続けてきたことが、良い結果を招いた可能性は少なくないのではないのでしょうか。

●「治療への水先案内人」

3度目のがんは、下顎部有棘細胞がんという皮膚のがん。雅子さんが74歳のときでした。今回もがんは他へ広がっておらず、部分切除で済んだそうです。

そして、4度目のがんは雅子さんが79歳のとき——。子宮体がんでした。

「このときは大腸にも転移しており、子宮の全摘と大腸の一部切除で10時間にも及ぶ大手術になりました。当初、人工肛門も覚悟するよういわれましたが、執刀してくださった医師たちのご努力で回避できたのです」（洋子さん）

手術後、担当医から抗がん剤を勧められた雅子さん。慣例通り拒否するつもりでしたが、蓮見賢一郎先生から「今回は受けた方が良いでしょう」と勧められたそうです。高齢ゆえの再発率の高さを慮ったうえでの提案でしたが、雅子さんもそれを受け入れ「1クールなら受ける」と答えたといいます。

抗がん剤の副作用は思いのほか軽く、一時的な脱毛は見られたものの吐き気などはなく、食欲も旺盛だったそうです。以後、雅子さんはがんを患うことなく、7年後に脳梗塞を発症するまで健康に過ごしたといいます。

「義母は70歳を超えるまで、クリーニング工場で働いていました。3度目のがんを克服した75歳あたりからは、女性専門のトレーニングジムに通い、運動にも励んでいました。ジムに行

かない日は、足が弱らないようにウォーキングしたり屈伸運動をするなど、母なりに健康を気遣っていたのだと思います」

そう語る洋子さんも、1年半ほど前に子宮体がんを発症。手術後はハスミワクチンを続けているといいます。

「がんを宣告されても、ちっとも動揺しませんでした。なんといっても、我が家には素晴らしいお手本がいてくれるのですから」（洋子さん）

「母ががんを乗り越えたように、どんなに厳しい状況でも、克服するための道は必ずあると思います。」

がんはつらい病気ですが、日々の生活は続きます。そして、生活のなかには楽しいとか嬉しいとか……心がときめく瞬間だってあるはずですよ。それらを糧に少しずつでも前へ進めば、良い結果は、おのずとついてくるのではないのでしょうか」（忠博さん）

2人に1人ががんに罹患する時代。最初のがんから32年間という歳月のなかで、計4度のがんを乗り越えた雅子さんの姿は、私たちにたとえようもない安心感をもたらしてくれます。

がんになっても怯えることなく、最善の治療に励めば必ず治療の道はある——。もしかしたら、その道の水先案内がハスミワクチンなのかもしれません。

珠光会通信 Shukokai Communication

Report

第17回『健康講座』 蓮見賢一郎先生「東京講演会」が開催

●治癒へ向かう“治療計画”を解説

さる1月26日(土)、東京の紀尾井フォーラムにおいて、毎年恒例となる蓮見賢一郎先生「東京講演会」が開催されました。

当日は補助席が出るほどの大盛況。多くの聴講者にお越しいただきました。

今年、蓮見先生が選んだ演題は、『がん治療の新時代——免疫療法を中心に据えた治療計画』。今や免疫療法は世界的規模で研究を加速させていますが、蓮見先生が25年前に開発に着手したHITV療法も、現在、次世代型免疫療法として目覚ましい実績を積み上げています。本講演では、そのHITV療法の最新治療データ・症例などを示しつつ、第4期・再発がんを治癒へ導くための“治療計画”をわかりやすく解説しました。



蓮見 賢一郎先生

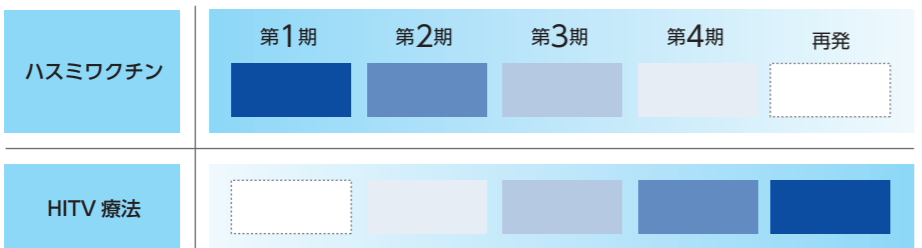
●ハスミワクチンとの使い分けも

HITV療法の有効性に関しては特集(3頁)で触れましたが、特筆すべきは“奏効率(有効率)”の高さでしょう。末期のがんにもかかわらず、腫瘍の消失・減少を合わせて42%近くの患者さんに効果が確認されているのですから、見事な成績といえるのではないのでしょうか。

また、がんの病期に応じたハスミワクチンとHITV療法の使い分けについても解説がありました(図1)。

ハスミワクチンは、がんの治療から予防まで幅広く効果を発揮するがんワクチンですが、主たる治療ステージは第1期～第3期です。第4期は手術・抗がん剤・放射線など主軸となる治療の補助療法として有効です。HITV療法は第4期・再発がんの治療に特化していますので、ハスミワクチンと組み合わせれば万全のフォーメーションといえるでしょう。

図1 がんの病期分類に応じた免疫療法



※ハスミワクチンは第1期～第4期まで幅広く効果を発揮。HITV療法は第4期・再発がんに特化した治療法です。

講演後に行われた質疑応答も活発。会は時間を延長し、名残惜しい余韻を曳きつつ終了しました。

本講演会の模様は、Webサイト「免疫療法コンシェルジュ」(<https://wellbeinglink.com>)で動画配信しています。スマホでもご覧いただけますので、ご興味のある方はぜひアクセスしてみてください。



講演会の様子

Shoku you jyo 身近な食材でできる 食養生 Recipe

赤、黄色のパプリカには抗酸化作用のあるビタミンA、C、Eが含まれ、脂溶性の成分が多いので、油と調理することで吸収が高まります。玉ねぎ、にんにくには抗酸化作用のある硫化アリルが含まれています。鶏のおむね肉には疲労回復物質のイミダペプチドが含まれ、薬膳では「気」を補うといわれており、疲労回復や病後の回復に鶏のスープは欠かせません。



赤、黄色パプリカと玉ねぎ、鶏肉のオーブン焼きハーブソース添え

材料(2人分)

- パプリカ 赤、黄色……各1個
- 玉ねぎ……1個
- 鶏おむね肉……240g
- 酒……大さじ2
- 塩、こしょう……各少々
- にんにく(みじん切り)……小さじ1/2
- オリーブ油……小1片
- ローズマリー……適宜
- ハーブソース
- バジル、イタリアンパセリ、タイムなど(みじん切り)……大さじ2
- にんにく(みじん切り)……小さじ1/2
- 塩……小さじ1/6
- オリーブ油……大さじ3

*ハーブソースは鶏肉以外にも魚や温野菜にかけてもよし、レモン汁などを加えればドレッシングにも使えます。

作り方

- 1 オーブンを170℃に温め、パプリカはよく洗い、縦半分になり、種とへたを除く。玉ねぎは六つ割りにする。鶏肉は流水で洗い、水気を切り、食べやすく半分厚みに切る。
- 2 鶏肉をバットに入れて酒をふり、塩、こしょうをし、にんにく、オリーブ油を加えてよくなじませ、ローズマリーを載せて置く。
- 3 オーブンの天板にオーブンシートを敷き、2の肉を載せて、パプリカ、玉ねぎを周りに並べ、1のオーブンに入れて9分ほど焼く(鶏肉に竹串を刺して透明な汁が出てくるまで)。
- 4 ハーブソースの材料をフードプロセッサーに入れ混ぜ、とろりとしたソースにする。
- 5 3が焼きあがったら1分ほど置いてオーブンから取り出し、鶏肉は食べやすい大きさに切り、野菜とともに器に盛り、4をかけていただく。

*にんにくは1～2個をみじん切りにして、体に合ったオイルと混ぜ、ジャムなどの空き瓶に入れて保存しておくと便利です。

第18回『健康講座』を開催——テーマは“肺炎”

入場無料

●インフルエンザから肺炎までわかりやすく解説

さる3月16日(土)、東京の紀尾井フォーラムにおいて第18回『健康講座』が行われました。演題は『高齢者の脅威——肺炎を知る』。杏林大学名誉教授の後藤元先生を講師にお招きし、インフルエンザから肺炎まで、肺にまつわる病気についてわかりやすく解説していただきました。ウイルスが薬剤に対して耐性を持ってしまう“薬剤耐性菌”の問題や、嚥下機能(飲み下す力)を高める“嚥下体操”の指導など、多彩なプログラムはどの瞬間も充実しており、約2時間の講演・質疑応答はあっという間に終了しました。後藤先生は医療法人社団珠光会系列の聖ヶ丘病院(東京都多摩市 <http://www.hijirigaoka.or.jp>)で診療もしています。呼吸器に問題を感じたら、一度訪れてみてもよいのではないのでしょうか。



後藤 元先生

本講座の様子はWebサイト「免疫療法コンシェルジュ」(<https://wellbeinglink.com>)にて、動画で公開しています。ぜひご覧ください。

お申し込み
方法

- Web サイト「免疫療法コンシェルジュ」(<https://wellbeinglink.com>) のトップ画面を下にスクロールすると、「これからの講演予定」があります。講演名をクリックすると、申込フォームになりますので、必要事項を記入し、お送りください。
- FAX でも受付けます。氏名・住所・電話番号・参加人数を明記して下記番号までお送りください。
FAX 番号 03(3556)7271 ※定員になりしだい締め切ります。